

平成 24 年度 事業報告

平成 24 年度は、3 つの大きな目標を掲げて取り組んだ 1 年となりました。

1 つは、3 月 21 日に内閣府より公益法人制度改革による一般社団法人への移行の認可が得られたことです。今後柔軟的な活動ができるようになります。

2 つは、国が定めた「経営革新等支援機関」に認定されたことです。これにより会員の活動領域が大きく広がるなど会としての活性化が図れるものと期待しています。

3 つは経営士補制度の復活です。念願の復活により、経営士養成講座の内容がさらに充実でき、また新入会がしやすくなると期待しています。

これらの大きな目標達成は、会員各位のご協力があったのものと、あらためて感謝の意を表します。

新たな法人格においては、自由度のある活動が可能となる反面、一般企業と同様の経営責任も伴うこととなります。会員各位には、今まで以上に秩序ある行動に加え、英知を結集した事業展開など会活動への積極的な参加と発展に向けたご協力をお願いする次第です。

下記に、事業活動について報告します。

◆人材育成事業について

*経営士養成講座

経営士養成講座は、本部 2 回のほか支部にて 5 回の講座を開催し、経営士の拡大に貢献できた。

①本部主催経営士養成講座 受講者 21 名

②山梨経営支援センター主催経営士養成講座 受講者 9 名

③神奈川経営支援センター主催経営士養成講座 受講者 5 名

④東北支部主催経営士養成講座 受講者 6 名

*環境経営士養成講座

環境経営士養成講座は、東京と福岡においてベーシックコース、アドバンスコースともに 8 回の講座を開催し、環境経営士の拡大に貢献できた。

*経営革新支援アドバイザー養成講座

認定経営革新等支援機関として経営支援の専門家である経営革新支援アドバイザー養成講座を、本部において 2 回の講座を開催し、45 名が受講した。

*経営力強化コンサルタント養成講座

トライアル講座を開催したところ、好評で、25 年度に本格募集を行うことになった。

*大学における寄付講座

寄付講座は、3年目を迎えた産業能率大学に加え、新たに静岡産業大学において開催し、入会者の拡大と知名度向上に貢献できた。

◆資格の付与事業

資格付与事業の拡大に向け、入会者の獲得の手段として「経営士補」の復活導入に向けたプログラムのガイドラインを作成するなど、平成25年度の開講準備を進めた。また経営士養成講座の積極開催の効果により、前年度を上回る正会員入会者を得ることができた。

◆会員相互の研鑽活動

第46回経営士全国研究会議をはじめ各支部の研究会、MPP研究等を通じて会員相互の研鑽を図り、会員価値の増大に寄与した。

◆公益事業

一般社団法人移行に伴い、公益目的収支計画の対象事業として掲げた公益性のある事業を中心に、地域や産業社会の活性化に向けた事業に取り組み、それぞれ一定の実績を残した。

- ①経営士全国研究会議
- ②ビジネス・イノベーション・アワード2012
- ③大学における冠寄付講座
- ④無料経営相談事業
- ⑤中小企業会計啓発・普及セミナー

◆広報事業

広報活動として、機関誌（マネジメント・コンサルタント）の発行とホームページ等を通じ、会員には情報の伝達と共有化を図り、又外部へは事業活動等のアピールにより経営士会及び経営士の知名度の浸透に努めた。

◆経営革新等支援機関認定制度への対応

重点目標の一つに掲げた「経営革新等支援機関への認定」は、関係者の努力が実って実現した。また、実行部隊の実行力を強化するための経営革新支援アドバイザー養成にも務め、中小企業の経営支援体制を整備した。

◆行政及び産業界への提言等

さまざまな活動において経済産業省、中小企業庁、金融庁などの支援を得る

とともに、経営士の研究成果を論文を通して外部発信し、また日刊工業新聞との連携による「経営士の提言」などを通じて行政及び産業界への提言を行ってきた。

◆経営能力開発研究プログラム（MPP）

MPP 委員会は、新しいケースメソッドの開発のほか、各支部のリーダーの養成・更新で女性の比率を高めるため MPP 研究会を支援、並びに企業、大学への PR に努めた。

◆女性経営士の活動

NJK 女性経営士の会は、「講師養成講座」「NJK セミナー静岡」「全国研・女性フォーラム」「総会&講演会」を開催し、女性経営士の活動を広報するとともに、女性経営士の拡大を図るべく PR に努めた。

◆コンパクトエコシステム（CES）の普及

「コンパクトエコシステム」の導入企業を拡大するため、行政へのアプローチをはじめ大手企業の調達部門、金融会社、グリーンファイナンスなどへの PR に努めるなど、普及活動に取り組んだ。

◆SR-Self システム

「SR-Self システム」の外部展開に向けて、プロジェクト会合やインストラクター養成に努め、企業などにアピールして普及活動を推進してきた。引き続き普及活動に努める。

◆経営士総合研究所

前期に復活した経営士総合研究所は、経営士養成講座を中心とした各種の人材養成事業の企画・運営に取り組んだほか、認定経営革新等支援機関としての支援事業の推進体制を構築するなど、事業の収益化に向けた基盤の整備を進めた。

◆支部活動報告

*北海道支部

今年度は北海道支部のマネジメントセミナーとして、日本企画計画学会の全国大会に後援という形で参画し、アメリカのナドラー博士等の講演を聞くとともに、多くの方々と交流し、ネットワークを築くことが出来たことが大きな成果であった。また、3回開催した MPP 研究会には外部メンバーにも参加いただき、

外部への活用の糸口となった。

本部事業には、全国研究会議・イノベーションアワードへ6名が参加し、認定経営革新等支援機関の事業を支える経営革新支援アドバイザー養成講座に1名を参加させるなど、本部事業に積極的に協力した。

*東北支部

平成24年度は思いもかけず大事業である経営士養成講座を実施することができた。受講者募集、外部講師の手配、本部との調整、テキストの作成、会場の手配など、すべて急を要するものばかりで大変心配もあったが、始まってみれば、講師の皆さんを含め全てスケジュール通り終了することができた。これは事前に何回も打合せを行いダメ押し確認と、皆さんの自覚と責任の結果だと思っている。今年度は養成講座を重点にE C O検定、中小企業会計普及・啓発セミナー、M P P研究会なども予定通り実施した。課題としては、全て受講者募集は早めに行う事。養成講座の期間をもう少し長く取ること等が考えられる。

*北関東支部

事業運営方針を「地域産業社会が活性化につながる魅力ある人材育成をめざす」のもとに、北関東地域の5県会の企画と会員連携により、地域に開かれた調査研修を毎月開催した。栃木県会では、9月「栃木地域産業発見フォーラム」。群馬県会では、「社員が誇りをもてる企業づくり」をテーマに今話題の経営者による公開講演会、200名の参加者をえる。11月富士重工業矢島工場見学会。新潟県M P P研究会では、地域産業社会との交流会（研鑽の会）として定着化してきた。茨城県会は、1月に賀詞交歓会と新入会員歓迎会を兼ねたM P P研究会。長野県会は、地域自治の在り方について、調査研究を続けている。

*千葉支部

平成24年度は、25年4月の一般社団法人への移行に向け、社会貢献活動として認知頂ける努力の中、若い力を開拓、結集し新たな価値を創造していくことを重点目標として掲げた。キーワードは「共創(Associate)」とし、会員一人一人の得意分野(強み)を連携させて高い成果を生み出すことが必要であると思われる。平成24年度の報告会では、千葉支部は次の3つのテーマを掲げて取り組んだ。

- ① 千葉県内の地域振興に積極的な協力を通して、地域貢献活動を図る。
- ② 経営コンサルタントとしての資質向上を図りながら、対外的経営相談の展開

- ③ 人口減少、少子高齢化等社会情勢の変化に伴い、千葉県における医療・介護福祉などの問題に対して、行政や民間企業への支援活動を通じて安心して暮らせる地域社会作りに貢献。

過去1～2年、県庁をはじめ、県内中小企業支援機関や県会議員等を通じ、日本経営士会の知名度向上の為に地域活動への参画の意思表示を行ってきた結果、23年度、24年度と中小企業基盤整備機構から受託した会計セミナーを船橋商工会議所とのタイアップで実施出来たことや、23年度イノベーションアワード表彰で最優秀賞を頂きたいすみ鉄道様との共催でいすみ市において「能楽とオペラの協演」というイベントを開催、まちおこしに大いに貢献したこと、ホームページから初めて経営相談の受託が出来たことなど、具体的な活動成果が徐々に出てきている。

今後も、日本経営士会の本来の使命である「中小企業の経営支援」を軸に、会員各位の協力を得て、魅力ある日本経営士会を目指し、活動を進める。

*埼玉支部

本年度の大きな行事は、まず第一に第46回経営士全国研究会議を支部主管として、開催(10/13～14)した事が挙げられる。上野実行委員長を中心としたプロジェクト・チーム各メンバーの精力的な準備・運営等により、約250名の参加を得て、成功裏に終了した。その過程で首都圏各支部の方々のご協力・支援をいただき、感謝申し上げる次第です。

もう一つは、例年通り「彩の国ビジネスアリーナ2013」に経営よろず相談会や会の知名度向上等を狙いに、出展(1/30～31)したことである。次年度以降は、本部の公益事業として「経営相談会」は必須条件であり、今後より一層のレベルアップを図っていきたい。

*東京支部

24年度に新支部体制になってから、“経営士イノベーション”を旗印に現役のコンサルティング活動を行っている経営士を役員を中心に配置して、1. 人財開発事業、2. 外部との連携事業、3. その他活動を活発に行ってきた。

又、支部会員等相互の交流促進として、①本部役員や他支部長等も交えた「東京支部イノベーションフォーラム」の開催、②新入会員歓迎懇親会、③フェイスブックの新開設、を行ってきた。

*南関東支部

当支部(神奈川・山梨・静岡県)は本部方針に基づき、昨年引き続き経営士養成講座開催と会員の増強、変革期のリーダー育成、経営幹部の人材育成、公的機関・団体との連携等で経営士の存在価値を示し、地域に貢献できる会

の運営と基盤強化に取り組んできた。

* 中部支部

中部支部には定例の6つの研究会がある。MPP研究会、商業問題研究会、ICT研究会、MI研究会等を活発に開催した。また、経営士養成講座を開催し人材育成研究に取り組んだ。「メッセナゴヤ2012・異業種交流展示会」(4日間)3月の「公開講座」などの外部企業向け事業は好評であり、集客数も多くあり当会のアピールの場となっていることは、成果としてあったと思われる。

* 近畿支部

近畿支部では、支部報告会・幹事会のほか、定例的に経営顧問研究会、経営士能力開発研究会(MPP)、人間行動研究会などを開催し会員相互の交流と能力研鑽に努めた。また、行政機関とのパイプづくりでは、近畿経済産業局の総合エネルギー広報室長を招いて講演会を開催したほか、経営相談会を開催して中小企業の経営支援に努めた。

* 中国支部

中国支部運営の基本的方向(戦略目標)である①会の認知度の向上、②各会員の認知度の向上、③同じく知識・技量の向上、④同じく業務領域の確保の支援に、向けて努力した。そして、公益活動、共益活動、収益活動の三本柱を常に検討課題としつつ活動をすすめた。特に24年度は経営士会の一般社団法人化を念頭において、収益事業の準備に費やした一年であった。そのため、MPPの外部活用、IQMS、経営士補養成講座等のシステムづくりを行った。その結果、平成25年度にはそれぞれの事業で一定の成果を出すことができるものと確信している。また、共益活動については主に各県経営支援センターが活動計画をたてて実行した。

* 四国支部

1. 地球環境に対する弊害の排除、地域社会の環境問題の緩和に協力し、環境に配慮した活力ある経済の発展に寄与するため環境経営の指導を高知経営支援センター長と同副センター長ら8名の経営士で「支部環境部会」を立ちあげ個々に指導していたが、「効果的環境経営への取組みによる強い企業を創るコンパクトエコシステムを創る」として、5月17日から3日間『環境経営士養成講座』を高知ちばさんセンターで開催する予定。
2. 第1回MPP研究会のテーマ「未来が予測しがたい世の中で生き残る組織に

求められること」という研究課題に対して「組織改革委員会」を立ち上げ、香川経営支援センターで3回、愛媛経営支援センターで2回開催した。6回目は4月28日に愛媛で開催する予定。

3. 第3回ビジネス・イノベーション・アワードでは、三経営支援センターからの推薦があった3社(栗田鋳造所・寿工務店・山田屋)が奨励賞に入賞、四国支部からも副賞が贈呈された。

*九州支部

新組織(一般社団法人)になると、これまで以上に組織としての存在価値が問われてくるので、役員をはじめとする支部会員全員の協力の下、新たな気持ちで支部組織の存続発展に向けた取組みを進めた。

まず、支部組織体制の整備充実を目指してこれまでの県会活動(タテ)に加えた組織横断型の部門別活動(ヨコ)の2本柱(マトリックス組織)でバランスのとれた相乗効果の発揮を一層進めた。

県会活動は、各県会長のもとで地域の実情を踏まえた活動を推進した。また、県会活動を補う部門別活動は組織強化活動部、広報活動部、研究開発部、環境改善活動部、渉外活動部の5部門の各委員長のもとで、積極的な活動を実施した。活動テーマ及び内容は、九州支部独自のノウハウであるSMP P研修会、中小企業診断ツール研修会、MP P研究会、経営戦略研究会、外部講師を招いての支部研修会(「世界一のロケット開発」(宇宙研究開発機構 井元隆行氏)等を実施した。

*台湾支部

台湾特別支部の会員は、言語の問題や在籍者が地方に分散しているため、会合の場や内部活動への参加動機づけに配慮している。主な動機づけはMP P研修である。この研修を受けてから、支部全員がリーダーを目指し積極的に参加するようになるなど、会の活動が活性化されている。

◆会員の移動状況

区分	平成24年4月1日	平成25年3月31日
正会員	1,140名	1,107名
賛助会員	119名	127名
合計	1,259名	1,234名